

May 28, 2021

【前日の為替概況】ドル円、3日続伸 米6兆ドル歳出計画」の報道きっかけに円売り・ドル買い

27日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続伸。終値は109.81円と前営業日NY終値(109.15円)と比べて66銭程度のドル高水準だった。「バイデン大統領は2022会計年度(21年10月-22年9月)の予算教書で、6兆ドルの歳出を求める計画」との一部報道をきっかけに円売り・ドル買いが優勢になった。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.62%台まで上昇したことも相場の支援材料となり、1時30分前に一時109.92円と4月9日以来の高値を付けた。市場では「ロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングに絡んだ円売りのフローが観測された」との声も聞かれた。

ただ、米7年債入札後に米長期金利が上昇幅を縮めるとドル買いの勢いは後退。4月9日の高値109.96円や節目の110.00円を前に利食い売りなども出て、一時109.76円付近まで伸び悩む場面があった。

ユーロ円は反発。終値は133.91円と前営業日NY終値(133.08円)と比べて83銭程度のユーロ高水準。米国株相場の上昇を背景に投資家のリスク志向が改善すると円売り・ユーロ買いが優勢となり、3時前に一時134.06円と2018年2月以来の高値を更新した。

ポンドは全面高。ブリハ英金融政策委員会(MPC)委員が「景気回復が予想以上に進めば、2022年の早い時期に利上げが実施される可能性がある」との見解を示したことで、全般ポンド買いが優勢となった。ポンド円は一時156.08円と18年2月以来の高値を付けたほか、ポンドドルは一時1.4219ドルまで値を上げた。また、ユーロポンドは一時0.8582ポンドまで下落した。

ユーロドルは小反発。終値は1.2195ドルと前営業日NY終値(1.2192ドル)と比べて0.0003ドル程度のユーロ高水準だった。ユーロ円の上昇につれた買いが入った半面、米金利上昇に伴うユーロ売り・ドル買いが出たため、終日方向感に乏しい展開が続いた。

【本日の東京為替見通し】米PCE・月末フィキシングなどで欧米入りまでは動きにくい

本日の東京時間のドル円は109円台で底堅い展開となるものの、欧米時間のイベントを前に深追いをするのは危険か。

昨日は2022年度の米予算への期待がドル円の買いを呼び込んだ一つのきっかけとなっている。しかしながら、ドル円以外の値動きや株式市場の動きとの整合性を考えると、ロンドン16時(日本時間24時)のフィキシングに向けた円売り・ドル買いと、その後のモデル系ファンドの買いがドル円の上げに寄与した部分が大いと思われる。本日の東京時間は、110円を手前に本邦輸出企業や個人FXなどの売りも観測されることが予測されることで、ドル円の買いトレンドは継続されつつも上昇する場合も緩やかになると思われる。

東京時間に大きな値動きを期待するのは難しいが、本日の欧米時間は大きく動く可能性がある。経済指標では今週一番注目度が高い米4月コア個人消費支出(PCE)価格指数などが発表される。昨日も米債利回りが神経質に動いたこともあり、指標結果による米金利の振れでドル円相場もかく乱されそう。また、月末は来週月曜の31日だが、同日は英米市場が休場となることで、ロンドン・フィキシングにとって月末は実質本日となる。この2日もフィキシングで大きく動いているが、本日も大きなフローが出てくるのが想像できる。フィキシングに関しては、かつて銀行間で情報交換を行い、相場操作をしたことにより逮捕者が出たことで各銀行とも厳しいかん口令が敷かれている。よって事前に情報が漏れてくることはほぼなくなっている。参考までに、昨年5月のドル円のフィキシングは大きくドル買い・円売りになっている。

ドル円以外の通貨も、本日の東京時間は本邦の失業率以外には、主だった経済指標の発表もないことで欧州待ちとなるだろう。特に月末のユーロポンドのフローは通常かなり大きなものとなることで要注意となる。ここ最近相場の動きをリードしたオセアニア通貨も本日は大きな値動きを期待するのは難しい。ただし、来週は豪準備銀行(RBA)理事会や豪州の1-3月期の国内総生産(GDP)の発表など、豪州から注目イベントが目白押しとなっていることで、週末にかけてのポジション調整の動きには気を付けておきたい。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ◎ 4月完全失業率（予想：2.7%）
- 08:30 ◎ 4月有効求人倍率（予想：1.10倍）
- 08:30 ◎ 5月東京都都区部消費者物価指数（CPI 生鮮食料品除く総合、予想：前年比▲0.2%）

<海外>

- 15:00 ◇ 4月独輸入物価指数（予想：前月比 1.1%／前年比 10.0%）
- 15:45 ◎ 1-3 月期仏国内総生産（GDP）改定値（予想：前期比 0.4%）
- 15:45 ◇ 5月仏消費者物価指数（CPI）速報値（予想：前月比 0.3%／前年比 1.4%）
- 15:45 ◇ 4月仏卸売物価指数（PPI）
- 15:45 ◇ 4月仏消費支出（予想：前月比▲4.0%）
- 16:00 ◇ 5月スイス KOF 景気先行指数（予想：136.0）
- 16:00 ◇ 4月トルコ貿易収支（予想：31 億ドルの赤字）
- 16:00 ◎ ビルロワ仏中銀総裁、発言
- 16:30 ◎ 1-3 月期スウェーデン GDP（予想：前期比 1.1%）
- 17:00 ◇ 5月ノルウェー失業率（予想：3.5%）
- 18:00 ◎ 5月ユーロ圏経済信頼感指数（予想：112.1）
- 18:00 ◎ 5月ユーロ圏消費者信頼感指数（確定値、予想：▲5.1）
- 21:30 ◎ 4月米個人消費支出（PCE、予想：前月比 0.5%）
 - ◎ 4月米個人所得（予想：前月比▲14.1%）
 - ☆ 4月米 PCE デフレーター（予想：前年比 3.5%）
 - ☆ 4月米 PCE コアデフレーター（予想：前月比 0.6%／前年比 2.9%）
- 22:45 ◎ 5月米シカゴ購買部協会景気指数（予想：68.0）
- 23:00 ◎ 5月米消費者態度指数（ミシガン大調べ、確報値、予想：83.0）
- 先進 7 カ国（G7）財務相・中央銀行総裁会議（オンライン）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

27 日 05:57 オア NZ 準備銀行(中央銀行、RBNZ) 総裁
「必要なら引き続き利下げの用意がある」

27 日 10:44 劉鶴中国副首相
(米当局者との会談で)
「米国との通商交渉は非常に重要」

27 日 11:04 タイ米通商代表部(USTR) 代表
「全体的に中国とは大きな問題に直面したままである」
「中国との交渉のフェーズ 1 は非常に重要だが、対中関係全体では一部にすぎない」

27 日 17:56 デコス・スペイン中銀総裁
「ユーロ圏のインフレ率の上昇は一時的な現象」

27 日 20:24 ブリハ英金融政策委員会(MPC) 委員
「一時帰休が円滑に終了した場合、早期の利上げの可能性」

27 日 23:12 マコネル米共和党・上院院内総務
「共和党は伝統的なインフラ法案を望んでいる」

27 日 23:22 メキシコ中銀議事要旨
「参加者の大半は、現在のような不確実性の高い環境では慎重なアプローチが必要と強調」
「ほとんどの参加者はインフレ圧力は一過性のもものと指摘」
「全ての参加者がコア・インフレ率が 2022 年の第 2 四半期から目標の 3%に収束すると予測」
「参加者の 1 人は、可能な限り必要な期間、緩和的な金融政策スタンスを維持することが重要だとの考え」

27 日 23:38 バイデン政権高官
「インフラに関する共和党の対案は真剣に検討されている」

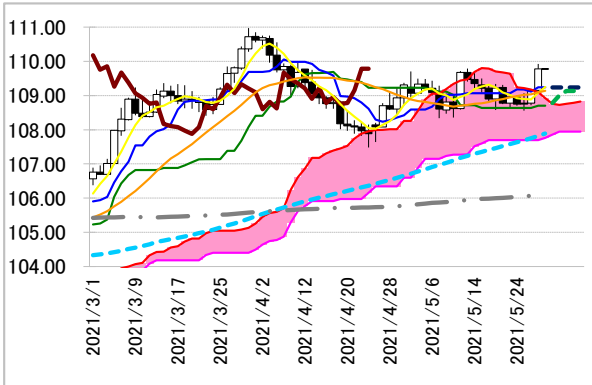
28 日 00:39 イエレン米財務長官
「財務省とホワイトハウスはインフレ動向を非常に注意深く監視している」
「今後数カ月はインフレ率は上昇すると予想するが、あくまでも一時的な動き」
「イランが核合意に復帰した場合、イラン制裁を慎重に見直す」

28 日 01:46 ホワイトハウス
「共和党のインフラ計画について懸念している」
「共和党のインフラ整備計画は実質的な資金源を示していない」
「来週、議会と協力してインフラ計画を検討」

28 日 02:17 ロシア首相
「民間機の強制着陸について、ロシアはベラルーシの立場を支持する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

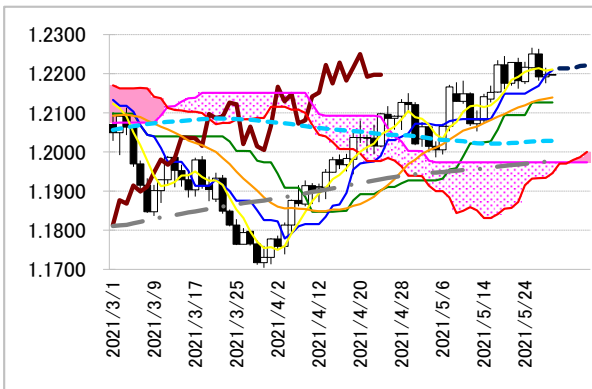


<ドル円=レンジ上方突破、基準線が想定より前倒しで上昇>

上影陽線引け。109円付近で低下傾向だった一目均衡表・転換線付近で動意が停滞する場面もあった。しかし、下値に一目・基準線のサポートも控えるなか早々に上昇を強め、直近のレンジ上限だった13日高値109.79円を抜けて、4月9日以来の高値109.92円をつけた。

久しぶりの高値圏で伸び悩んでも、上昇へ転じた転換線や、これまでの想定より前倒しで横ばいから上昇した基準線が支えとなる。基準線が転換線付近へ上昇して、下押し局面でのサポートが強固となる時期が早まりそうなことも安心感を誘う。

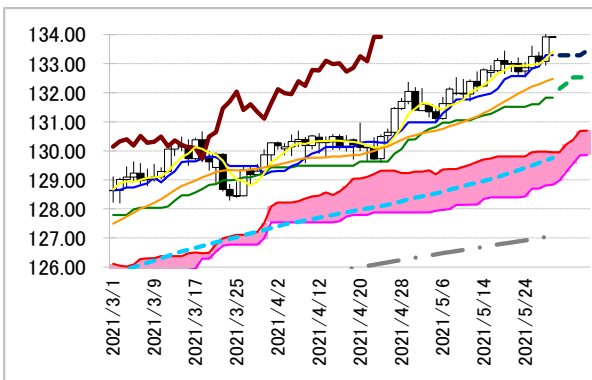
レジスタンス2 110.97(3/31 高値=年初来高値)
レジスタンス1 110.55(4/6 高値)
前日終値 109.81
サポート1 109.24(日足一目均衡表・転換線)



<ユーロドル=転換線付近の攻防>

極小陽線引け。一目均衡表・転換線付近の振幅に終始した。下押し局面で動意の収束を示唆する十字線に近い足型を形成したこともあり下げ止まり、本日1.2209ドルへじり高となる転換線とともに持ち直す展開を予想する。下押しがあっても、下値で上昇中の21日移動平均線や、一目・基準線1.2126ドルが支えになるとみる。

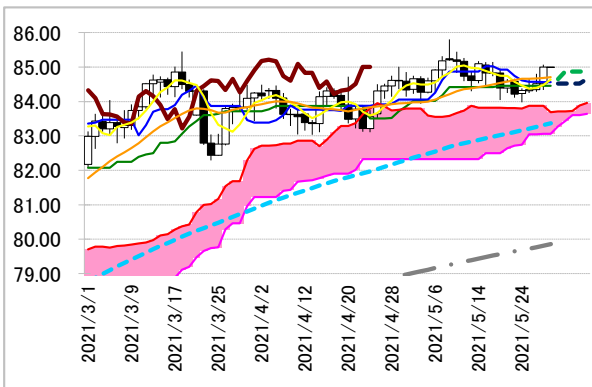
レジスタンス1 1.2266(5/25 高値)
前日終値 1.2195
サポート1 1.2139(21日移動平均線)



<ユーロ円=強い波形確認して早いペースで高値更新か>

陽線引け。一目均衡表・転換線付近の底堅さを維持し、2018年2月以来の高値を134.06円まで更新した。高値圏とあって調整も想定できるが、下押しが25日高値133.61円までにとどまれば、強い波形維持の確認となり、高値更新の流れが早いペースで進むことになりそう。押し目が多少深めとなっても、133.29円まで切り上がった転換線が支えとなる。

レジスタンス1 134.36(5/19-24 下落幅の倍返し)
前日終値 133.91
サポート1 133.29(日足一目均衡表・転換線)



<豪ドル円=上昇へ転じる見込みの基準線が下支え>

陽線引け。84円台で低下傾向の一目均衡表・転換線付近の重さを押しよけて上伸び、18日以来の85円台回復となった。転換線は、まだ来週84.53円へ小幅に切り下がる見込みだが、一方で基準線が横ばいから上昇へ転じる公算。転換線も下げ止まるとみられ、高値更新をうかがう底堅い相場展開を予想する。

レジスタンス1 85.45(5/11 高値)
前日終値 85.06
サポート1 84.45(日足一目均衡表・基準線)

